

[成果情報名]トウゲシバの県内分布および生育環境の特性

[要約]トウゲシバは県内に広く分布する。しかし、生育密度が非常に低く、優占種ではないことから、適地の条件は非常に限定的である。適地の条件はスギやヒノキの人工林において、北向き斜面で散乱光が入り、空気湿度が高く、他の植生に被圧されない環境を好む。

[キーワード]トウゲシバ、分布域、生育環境

[担当]農林技術開発センター・森林研究部門

[連絡先](代表) 0957-26-3330

[区分]林業

[分類]行政

[公表年度]2013 年度

[背景・ねらい]

トウゲシバ(写真1)は東アジアに分布するヒカゲノカズラ科ヒカゲノカズラ属のシダ植物である。近年、アルツハイマー病への効果を持つ機能性物質ヒューペルジンAを含むことから注目されている。しかし、長崎県内での分布域や生育特性は把握されておらず、今後の展開を検討する情報が乏しい。そこで、本課題ではトウゲシバの県内分布および生育環境の特性について調査する。

[成果の内容・特徴]

1. トウゲシバは壱岐を除く県内全域に分布する(図1)。
2. トウゲシバは県内に分布しているものの、生育密度が非常に低く、密度の高い地域は約4%と極めて少ない(図2)。このことは、自然環境下においてトウゲシバ自体は優占種ではなく、適地の条件は非常に限定的であることを示唆している。
3. トウゲシバは、スギやヒノキ人工林内の北向き斜面で散乱光が入り、沢のそばや雲霧帯など空気湿度が高く、他の下層植生に被圧されない生育環境を好む(図2、3、4)。

[成果の活用面・留意点]

1. 調査方法は、林内を散策後、3m×3mのコドラートを設置し、その中での生育密度、上層木の樹種、水分条件、斜面方位、間伐の有無、土壌硬度、下層植生について調査した。
2. 生育密度はコドラート内に1~3株の場合「疎」、10株までの場合「中」、全面に分布したときを「密」とした。
3. 長崎県内での林間栽培は困難であると考えられる。

[具体的データ]



図1 県内で分布を確認した箇所

凡例（生育密度）
 無：なし、疎：1～3株
 中：4～10株、密：11株以上

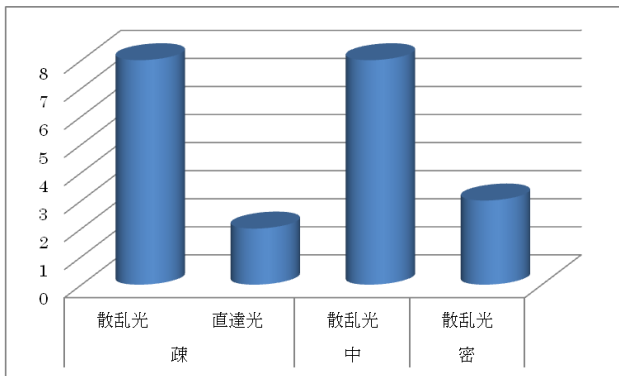


図3 生育密度と林内の光環境



写真1 トウゲシバ

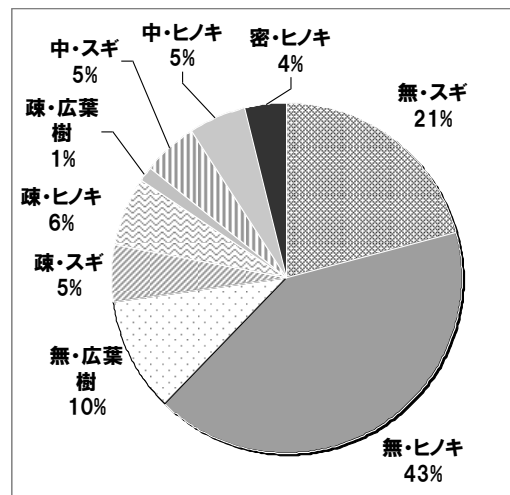


図2 生育密度と調査地の優先樹種
 注) 県内 77 箇所の調査による。

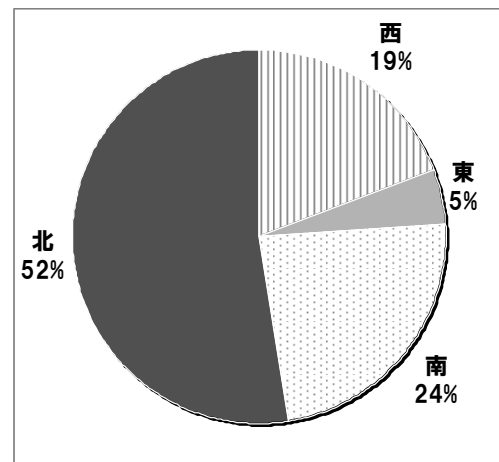


図4 生育した斜面方位

[その他]

研究課題名：平成25年度産学官連携F S
 予算区分：県単
 研究期間：2013年度
 研究担当者：前田 一